

令和4年度 学校教育自己診断の結果と分析

泉尾工業高等学校

生徒

「1 学校へ行くのが楽しい」(肯定率 81.6%)

生徒の学校生活への満足度を表す総括的な指標であり、さらに肯定率が高まるような教育活動を行っていききたい。

「9 工業に関する知識や技術が身についたと感じている」(肯定率 91.2%)

各工業科の実習、座学において、生徒一人一人の実情にあったきめ細かな指導を行うことができた。

「10 授業でわからないことについて、先生に質問しやすい」(肯定率 91.6%)

生徒が質問しやすい授業環境を整えることができた。また、日頃の生徒と教員の望ましい人間関係が構築できている。

「11 教室や実習室など校内美化が行き届いていて、学習しやすい環境にある」

(肯定率 75.7%)

清掃活動の充実、整理整頓の徹底など、校内美化に対する意識向上を図る。

「12 学校は1人1台端末を効果的に活用している」(肯定率 81.6%)

各種アンケートでの活用は定着しつつあるが、各教科の授業など学習活動での使用頻度を高めることを目標とする。

「13 将来の進路や生き方について考える機会がある」(肯定率 91.9%)

進路指導、生徒指導の場面をはじめ、あらゆる生徒との関わりの中かで、生徒の進路に対する意識を高めることができた。

「17 部活動に積極的に取り組んでいる」(肯定率 63.7%)

高校生活のさらなる充実や学校の活性化をめざし、部活動加入率を高めたい。

「20 泉尾工業に入学してよかった」(肯定率 86.6%)

生徒の学校生活への満足度を表す総括的な指標であり、さらに肯定率が高まるような教育活動を行っていく。

教職員

「1 学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」(肯定率 94.1%)

教員間のコミュニケーションが活発になり、さらに肯定率があがるよう、職場環境のさらなる充実に努める。

「7 学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている」

(肯定率 75.0%)

学校行事に向け、精査、見直しを適時行い、さらなる魅力化を図る。

「11 生徒指導において、家庭との連携ができています」(肯定率 96.1%)

引き続き、学校と家庭とが連携、協力しながら教育活動を進めていく。

「17 各分掌や工業各科、教科の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。」

(肯定率 49.0%)

教科、分掌の横断的な連携が十分でない状況である。教職員全体がチームとしての機能し、より円滑に教育活動が行える学校運営に努める。

保護者

「1 子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている」(肯定率 68.0%)

生徒の「学校に行くのが楽しい」の肯定率(81.6%)と比較すると、ややその割合が低い。家庭においても、生徒の学校生活の楽しさが伝わる学校づくりに努める。

「4 学校生活についての先生の指導は納得できる」(肯定率 76.2%)

本校の指導方針についての理解が得られるよう、学校と家庭とがしっかりと連携を取りながら教育活動を進めていく。

「10 学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」(肯定率 92.0%)

多くの保護者が子どもの卒業後の進路は就職を意識し入学させており、就職希望者の学校紹介による就職率 100%を維持していることが評価されている。

「12 学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」(肯定率 68.0%)

学校と家庭の連携をこれまで以上に深める。

「18 泉尾工業高校に入学させてよかった」(肯定率 92.0%)

保護者の学校に対する満足度は高い。平素の生徒に対するきめ細かな指導が評価されたものと考えている。